

第5学年 社会科の実践

1 単元名「未来を支える食料生産 水産業のさかんな地域」（全9時間 6時間目）

2 単元目標

- ・我が国の水産業が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・水産業に関わる人々の働きを多角的に考える力、水産業に関わる課題を把握して、これからの水産業の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- ・我が国の水産業について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて 子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」

- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈聴く・話す指導について〉

4月に聴く・話すときにどのように聴いてほしいか、話してほしいかということについて話し合った。「相手を見ること・反応をすること」など、理想とする聴き方・話し方の姿が挙げられた。9月には、学級目標についての振り返りから、「話を聴くことの大切さ」について全員で共通して理解をすることができた。

日ごろから話している人を見ることを促すようにしている。発言者の声が小さく全体に伝わらないときには、近くの児童や担任が聞き取り、代わりに伝えている。

学習中は、自分の考えをもてるように、個人の考えをノートに書く時間を設けるようにしている。自分でじっくり考えることの大切さを伝えていきたい。さらに、考えを近くの児童や話しやすい相手に相談する相談タイムを設け、自分の考えに自信をもったり再度考え直したりする機会を作っている。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

仲のよい友達以外とかかわる機会が少ないため、しばしばエンカウンターを行い、学級みんなで過ごすことの楽しさを味わえるようにしている。代表委員会やお楽しみ会の話し合いなどで、自分たちで司会を決めて話し合う場を設けてきた。声の大きな児童ばかりの意見に偏らないようにと、司会が考えて指名する姿も見られ、全員が考えをもたなければいけないのだなという雰囲気が少しずつ生まれているように思う。少人数での相談タイムでは反応が少しずつ増えている。国語の「からたちの花」では、

詩の中にどのような工夫があるかを考えた。ノートに考えを書いたのちに近くの友達と相談する時間を設けると、「あー、すごい。」「その考え天才!」「本当だ。」など、友達の考えによく反応し、考えを交流することに楽しさを感じていた。自分から話すことに慣れていない児童がいる場合は、教師が一緒に相談に入り、声掛けをしていく必要がある。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、大単元「未来を支える食料生産」の中の三つの小単元「米づくりのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」「これからの食料生産」の中の一つである。全体を通して、我が国の食料生産についての現状や課題を理解し、これからの産業のあり方を考える展開となっている。今回は、「水産業のさかんな地域」として子どもたちに身近な小田原市にも焦点をあてることで、水産業の現状や課題をより具体的に捉えて考えていけるのではないかと考えた。生産物の分布や生産量の変化、外国との関わりなどにも着目して、各種の資料を活用しながら、水産業には多くの人々が関わり工夫・努力をしていることに気付かせたい。

〈指導について〉

本単元の導入では、スーパーで売られている水揚げされた小田原産のブリと養殖の高知県産のブリの写真を見比べる。子どもたちは、見た目や値段のラベル、商品に貼られたシールから同じブリなのになぜ値段が異なるのか疑問をもつだろう。そこから、価格に関わりそうなこととして天然と養殖の違いや場所などが挙げられるのではないかと考える。この疑問や予想を軸に単元を構想していく。

漁業について教科書や資料集の資料を読み取るとともに、小田原の漁師をゲストティーチャーとして迎え、話を聴く機会を設ける。実際に話を聴くことで、漁師の苦労や努力をより身近なものとして知ることができるだろう。魚が獲れないこともある漁と安定して生産できる養殖業を知ること、養殖の方が良いことが多いのではないかと疑問が出てくると考える。その上で、本時に子どもたちが解決したい問題は、「小田原でこれから進めていくのは、漁業と養殖どちらがよいのだろう?」である。これまで調べたことや学習したことを伝え合い、どちらかを選ぶのではなく、どちらにも良い点があり、推進、応援していくことの大切さに気付かせたい。漁業と養殖について、仲間の考えを理解し、双方の大変さや難しさ、よいところについて考えを深める姿をひびき合いの姿とする。

調べることに限っては、資料の丸写しではなく、内容を理解して取捨選択していく力を身に付けてほしい。そこで、資料から読み取ったことを自分なりに改めて考える時間を確保していく。ノート指導として、毎回の学習の最後に振り返りを書いていくようにする。話し合いを行ったときには、友達の考えから新たな考えが自分の中に生まれたり、深まったりしていることにも気付かせたい。

単
元
目
標

- ・我が国の水産業が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・水産業に関わる人々の働きを多角的に考える力、水産業に関わる課題を把握して、これからの水産業の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- ・我が国の水産業について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

前時まで…

漁業の消費量が少ないなんて。
果実よりも低いの？
主食なのになんでだろう。

【態】写真を見比べ、2つの違いについて考えようとしている。
(付箋・発言)

値段の異なるぶりの写真を提示する。

- ・なんで値段が違うんだろう。
- ・4枚入りの方が安い。
- ・養殖は241円。天然の方は107円。 ・大きさがちがう。
- ・安い方を買うよ。 ・高い方は売れないのかな。
- ・高い方は高級なんじゃない？ ・獲れた場所が遠いからだよ。
- ・トラック代とかがかかるから。 ・飛行機かも。
- ・届け方が関係してそう。 ・小田原は近いから新鮮。
- ・養殖だと育てるのにお金がかかりそう。 ・下処理（切り方）があまり…。
・アニサキスがいる。

天然ぶりと養殖ぶりは、なぜ値段が違うのかな？①②③④⑤⑦

漁の仕方と養殖の仕方を探ろう②③④⑤

漁の仕方を知ろう④

【漁】

- ・魚がよく獲れるところと獲れないところがある。
- ・朝早くに漁をしているんだね。 ・小田原の漁師は50人。
- ・すぐに出荷もしてるんだって。 ・少ない。 ・力仕事。
- ・網は3億って言ってた。高い。
- ・獲れないときもあって、大変なこともあるんだね。
- ・儲け0。・続いたら赤字。・ごみしか獲れない日もあるって。
- ・小田原は魚の種類が多いところだって言ってたよ。
- ・いろんな獲り方があるって言ってた。
- ・漁は獲れるかどうか分からないけどやってるんだ。 ・米と同じ。
- ・たくさん獲れると安くなるから、天然ぶりは安いんだよ。
- ・安定してると漁で獲れなくても売れるから高くてもいい。
- ・漁で獲れない場所でも育てれば獲れる。

【知・技】主な水産物の種類や産地の分布、養殖に必要な環境や設備、作業などを資料から読み取ることができる。（ノート・発言）

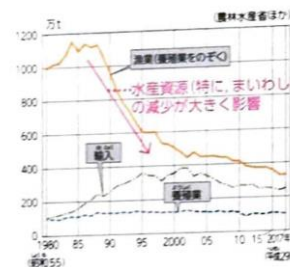
小田原の水産業プロモーション動画を視聴したり、小田原の漁師さんから話を聴いたりすることで、小田原の漁業に興味をもてるようにするとともに、漁の仕方を知ることができるようにする。

養殖の仕方を知ろう⑤

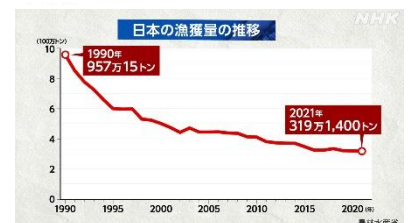
【養殖】

- ・育てるのにお金がかかるから高くなっちゃう。
- ・えさ代とか施設代とか。
- ・養殖は、毎年獲れる量が変わらないから、安定して

る。



【資料】日本の漁業生産量と、水産物輸入量の変化（教科書）



- ・養殖の方がいいことがたくさんありそう。
- ・なんで漁は獲れる量が減ってるのかな。
- ・どっちがいいのかな？

小田原では、これから天然と養殖のどちらを進めていけばよいかな？⑥（本時）

- ・大変だけど新鮮な魚を売れるから、天然の方がいい。
- ・小田原は海に近い。魚が有名。
- ・たくさん獲れる。・魚が豊富。・獲らなきゃもったいない。
- ・小田原は養殖に適した場所じゃない。
- ・魚の量が減る。→制限する。
- ・どちらもメリット、デメリットがある。
- ・その土地に適したものを進めていくとよい。・応援していかないと。

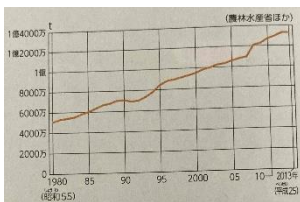
漁師を応援するために、小田原で行っている未利用魚を活用する取り組みを紹介した動画を視聴する。

魚の届け方を探ろう⑦

- ・魚を売る店が獲れたところから近かったら、その分安くなりそう。
- ・養殖は遠いから高い。・トラックとか飛行機で届けるんだ。
- ・値段はどうか。
- ・新鮮だとおいしいから、早く届くようにしてるんだ。
- ・小田原の魚はおいしいから。
- ・高くなるけど、その分新鮮だから売れる。

漁で獲れる魚が減っているのはなぜだろう⑧

- ・魚が減っているのかな。
- ・なんで減るんだろう。・自然環境が悪くなってるからかな。



【資料】世界の水産物の消費量の変化（教科書）

- ・獲る量を制限しているんだ。
- ・魚を食べる量が増えて、魚が減ってしまったんだ。
- ・工夫をして、海を守ってる。

これからの水産業でできることはなんだろう⑨

- ・ごみを落とさない。
- ・海をきれいにするボランティアに参加する。
- ・未利用魚など、珍しい魚も買ってみる。
- ・稚魚を釣ったら放してあげる。

- ・養殖の方が安定して魚が獲れるから、養殖の方がいい。
- ・獲れないときがあったら、大変。・台風に弱い。
- ・施設にはお金もかかる。・たくさんは獲れない。
- ・食べたい魚を食べたい分育てられる。

【思】これまでの資料や知識から、漁業と養殖業のよさを考えることができる。（ノート・発言）

11時の東京駅の店にも小田原の魚が売られていること、サバヌーヴォーの紹介をする。

【知・技】産地から消費地に届くまでには、様々な輸送の方法やそれにかかわる人たちの工夫や努力があることを資料からの確に読み取っている。（ノート・発言）

教科書の資料の他に、さんまの乱獲により魚が減っている資料を紹介する。

【知・技】資料を的確に読み取り、安定した水産業を続けるためには世界の国々への働きかけが大切になってきていることを捉えている。（ノート・発言）

【思】これまでの学習を整理して、水産業に関わる人々の働き、変化や課題に対応する人々の工夫や努力について理解し、これからの水産業について考える。（ノート・発言）

6. 本時について。

- (1) 本時目標 これまで学習したことをもとに、とる漁業と養殖の苦労や大変なこと、良いところを話し合いながら、これからの小田原の漁業について話し合い、日本の漁業について考えることができる。」

⊕ (2) 本時展開。

学習活動。	主な支援・留意点 ◆評価。
小田原でこれから進めていくのは、漁と養殖よくどちらがよいのだろうか？ 漁 ○小田原がたくさん魚が獲れるところだから、漁を進めていくべき。 ○新鮮なものを届けられる。 ○未利用魚にも価値が出始めている。 ○漁師さんは全部買ってもらえると言っていた。 △朝が早くて大変。 △魚が獲れない日もある。 網も高い。 △魚もとれなくなってきた。 養殖 ○売りたい分を売りたいだけ育てられるから安定している→計画的にできる。 ○小田原でもチャレンジしようとしているから進めていくべき。 ○早く育てられる技術などもあって、これから進めていくとよい。 △温かいところが適しているから、小田原では難しい。 場所によって進めていくものは違う。 これからの漁業 その土地に適したものをすすめていくとよい。 どちらも応援していくべき。 ↓	・今まで学習したことを掲示しておき、話し合いで活用できるようにする。」 ・前時までに、どちらがよいかをノートに書かせておく。」 ・全員がネームプレートで自分の考えを表すようにする。」 ・ネームカードをもとに、同じ立場同士で相談し、根拠に自信をもたせる。」 ・前時までに読み取った資料を振り返りながら、根拠を明確にさせていくようにする。」 ・とる漁業についての短所が多く出たときに、漁師を応援する小田原のスーパーの取り組みを紹介した動画を視聴する。」 ・話し合い後に、自分の考えをもう一度考えさせる。考えが変わった場合は、ネームプレートを移動させる。」 ◆これまでの資料や知識から、漁と養殖のよさを考えることができる。【思考・判断・表現】

7 実践を終えて

〈单元について〉

本单元は、児童に身近なスーパーで売られている2枚のブリの写真を比べることから始めた。児童は、じっくりと見比べをしたことで、なぜ値段が違うのかという疑問を抱いた。パックについていたシールや見た目などの情報から予想をしながら考えていた。値段が異なることの理由を解き明かすために、「魚がどこから来て、どのように自分たちに届けられるのか」を学習するというめあてができた。スーパーの写真や漁師さんからの話、届け方、未利用魚のことなど、多くの内容に小田原のことを取り入れながら学習を進めたため、資料を提示すると、「そうそう。」「見たことある。」というような共感する反応があった。また、児童から「最近小田原の魚が電車で東京に行ってるんだよ。」という言葉もあった。单元を通して児童にとって身近な内容として学習ができたと言える。

〈子どもの解決したい課題となったかについて〉

本時は、前時に養殖のメリットを押さえた後に行った。ゲストティーチャーの漁師さんの話も踏まえながら、小田原だったら養殖と獲る漁業のどちらがよいかの話し合いを行った。養殖と獲る漁業の学習を終えた後であったため、両方のメリット・デメリットをよく考えて発言する姿が見られた。小田原の漁師さんの話を聴けたことから、児童にとってより解決したい課題になったと考える。

〈成果と課題〉

【成果】

- ・ゲストティーチャーの漁師さんの話は、児童の興味を高めた。教科書にはない、本当の話を直接聴いたことにより、児童の記憶に残るとともに、身近な現実のものとして理解することができた。話し合いの中でも、漁師さんの話から意見が出るが多かった。
- ・ノート指導において、毎回振り返りを書いたことにより、話し合いの前後での変容をよく見取ることができた。本時でも、最初「小田原で養殖を進めたほうが良い」という意見だった児童が、友達の考えを聞いて、「〇〇さんの意見を聴いて、小田原の良さを生かした獲る漁業の方が良いという意見に変わった。」と記載していた。友達の話から、自分の考えを深めたり、異なる意見でも相手の意見の良さを見つれたりしていた。

【課題】

- ・本時で「世界の水産物の消費量の変化」についての資料を提示したが、今回は小田原についての内容を取り扱った時間であった。そのため、資料も「小田原の水産物の消費量の変化」にするなど、資料の範囲を「小田原」に絞ると、児童もより小田原にこだわって話し合えたのではないかと考える。
- ・ゲストティーチャーの話からわかったことについてはよく話していたが、今まで使ってきた資料を活用することがあまりできなかった。児童が、養殖は安定しているなどデータからわかったことを話す場面はあったので、教室に掲示していた資料を全員で確認する時間があると、理解が深まり、全員が共通の土台で話し合えたのではないかと考える。また、前時までの中でも小田原についての資料を紹介しておく、より話し合いの中で話題にしやすかったように思う。